

身近な野生生物の観察事業について

1. 背景・目的

化学物質は現在の生活には欠かせない便利な物である一方、その利用に伴い、人への影響のみならず、生態系への影響も含んだ環境へのリスクを有するものでもある。このため、環境省では子供たちや一般市民の方々に、化学物質が人や生態系へ与える影響について理解を深めていただくため、一般市民を対象とした身近な野生生物の観察事業を実施している。

本事業は、野生生物を観察することにより、野生生物に対する興味の涵養、生物多様性の理解、生物個体が生存する系の複雑なバランスの理解を得ることを目標としており、生物への深い理解を持った上で、化学物質が生態系に与える影響を考えることができる人材を増やしていくことを、この事業の最終的な目的としている。

2. 平成20年度事業の実施結果について

1) 参加団体

平成20年6月より次の条件を満たす団体を対象として環境省ホームページ上で参加団体を募集し、23団体を決定した（別添1参照）。

- ① 普段から生き物の観察を行っていること。
- ② 指定された期間内に3回以上野生生物の観察を行い、報告を行うことができること。

2) 準備会、調査の実施

観察準備会（平成20年8月）の開催後、目的に照らし、各団体には期間内に3回以上の調査を実施いただいた。

各団体からは、事前計画、調査報告、アンケートを各期限までに提出いただき、このうち事前計画・調査報告に対しては、下記の専門家（指導委員）より助言を行った。

<指導委員>

青山 博昭	残留農薬研究所毒性部部長
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授
斉藤 秀生	自然環境研究センター主席研究員
戸田 光彦	自然環境研究センター主席研究員
花里 孝幸	信州大学山岳科学総合研究所教授
福井 行雄	広島県立広高等学校教諭
安間 繁樹	農学博士（哺乳動物生態学研究者）

3) 観察報告会及び見学会の実施

平成20年度は、前年度までの参加者からの要望も踏まえ、団体間の相互交流、及び環境関連の最新の研究に触れていただく機会を提供することを目的として、平成21年3月に観察報告会及び国立環境研究所の施設見学会を新たに実施した（別添2参照）。

参加団体については、提出された報告書をもとに10団体を選定し、当日は子ど

もによる観察結果の発表の他、専門家からの助言や参加者同士による質疑など、活発な意見交換がなされた。同日午後からは、国立環境研究所の見学会を実施し、内分泌かく乱作用等を含む最新研究の紹介の他、研究施設等を見学した。

同報告会及び見学会の参加者には、会終了後アンケートを実施し、意見の収集に努めた。

4) 報告書の取りまとめ及び配布

各団体から提出された報告については、最終的に報告書（冊子）として取りまとめた後、参加者全員に配布を行った。

5) 総括

20年度新たに開催した報告会・見学会については、参加者より概ね好評をいただき、同事業の目的に適った評価、感想等も得られている。他方、子どもに配慮した説明や、ゆとりのあるスケジュール等運営面での改善についての意見も見られた。

また、本事業全体への意見としては、主に実施時期に対する要望が多く寄せられた。

3. 平成21年度の実施状況について

1) 参加団体

平成21年5月より次の条件を満たす団体を対象として環境省ホームページ上で参加団体を募集し、23団体を決定した（別添3参照）。

①普段から生き物の観察を行っていること。

②平成21年11月15日までに3回以上野生生物の観察を行い、報告を行うことができること。

2) 準備会、調査の実施

観察準備会を平成21年7月10日に開催し、各団体の代表者に対し、環境省より本事業の目的等についての説明、及び指導委員より観察に当たっての助言等が行われた。この他、指導委員（同上）より野生生物観察、内分泌かく乱作用等に係る最新の調査研究について御紹介いただき、参加者との活発な質疑応答も交わされた。準備会開催後、各団体には期間内に3回以上の調査を実施いただいているところである。

なお、各団体からは、事前計画、調査報告、アンケートを各期限までに提出いただき、このうち事前計画・調査報告に対しては、指導委員より助言を行うこととしている。

3) 観察報告会及び見学会の実施

今年度も、平成22年3月に観察報告会及び研究施設の見学会を予定しており（国立環境研究所を予定）、代表団体（10団体程度）を選定の上、開催の予定である。

(参考) ExTEND2005 における「身近な野生生物の観察」事業の位置づけ

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について－ExTEND2005－」（平成17年3月策定。）における基本的な柱の一つとして、「情報提供とリスクコミュニケーション等の推進」が掲げられており、この一環として、子供や一般市民と、化学物質のリスクに関する情報を共有し、化学物質の人への影響だけでなく生態系への影響について理解を促す施策を推進することとしている。

本事業は、地域に根ざした継続的かつ広域的な観察を行うことにより、多様な生物種を含む生態系の現状把握を行い、これによって専門家による調査への貢献をするとともに、一般国民の生態系に関する関心・興味を喚起することを目的として、平成17年度より実施している。

(別添 1)

平成 20 年度身近な野生生物観察事業参加団体一覧

1. こどもエコクラブくしろ（北海道釧路市）
2. みずさわエコキッズ（岩手県奥州市）
3. リボン&パンジーこどもエコクラブ（東京都渋谷区）
4. ～えどがわ自遊楽校～みずとみどりの寺子屋（東京都江戸川区）
5. 武蔵野エコ・クラブ（東京都武蔵野市）
6. 野島自然観察探見隊（神奈川県横浜市）
7. こどもエコクラブ オニオンクラブ（神奈川県小田原市）
8. 美しき地球号依知南環境守り隊（神奈川県厚木市）
9. Discover Nature（長野県長野市）
10. エコクラブ JNW（岐阜県多治見市）
11. Aichi Sea Green Map（愛知県名古屋市）
12. 山崎川グリーンマップ（愛知県名古屋市）
13. もちはし推進ジュニア応援隊（愛知県名古屋市）
14. 東広瀬環境レンジャーⅡ、東広瀬のグリーンレンジャー、いしがせ自然探検隊4クラブ連合（愛知県豊田市）
15. 志摩市立立神小学4年生（三重県志摩市）
16. 大阪府立高津高等学校生物研究部（大阪府大阪市）
17. もっちーず&たけちゃんず（兵庫県明石市）
18. にこちゃんず（岡山県赤磐市）
19. さぬきこどもエコクラブ（香川県高松市）
20. 善通寺こどもエコクラブ（香川県善通寺市）
21. 生き物調査隊（福岡県糟屋郡）
22. JEC リルーグリーンクラブ2（長崎県長崎市）
23. 東植田探検隊（大分県大分市）

(別添2)

平成20年度観察報告会及び国立環境研究所見学会開催結果

1. 期 日 平成21年3月27日(金)
2. 会 場 (独)国立環境研究所(茨城県つくば市小野川16-2)
3. 参加者 参加団体代表者30名(10団体)
指導委員6名(青山委員、井口委員、斉藤委員、花里委員、
福井委員、安間委員)
他 環境省、事務局((財)日本環境協会)
4. プログラム

10:00	開会
10:15~10:20	今年度の総括(環境省)
10:20~12:30	観察報告発表、意見交換、指導員からのアドバイス等 ①こどもエコクラブくしろ ②みずさわエコキッズ ③えどがわ自遊楽校~みずとみどりの寺子屋 ④こどもエコクラブ オニオンクラブ ⑤美しき地球号依知南環境守り隊 ⑥エコクラブ JNW ⑦山崎川グリーンマップ ⑧大阪府立高津高等学校生物研究部 ⑨にこちゃんず ⑩生き物調査隊
12:30~13:20	休憩
13:20~13:25	全体講評
13:30~15:30	国立環境研究所見学会 (環境リスク研究棟鑑迫研究室、環境試料タイムカプセル棟、他)
15:35	閉会

平成 21 年度身近な野生生物観察事業参加団体一覧

1. こどもエコクラブくしろ（北海道釧路市）
2. 赤羽緑地を守る会（茨城県日立市）
3. 竹の子エコクラブ（埼玉県入間郡）
4. 茂原自然大好きクラブ（千葉県茂原市）
5. リボン&パンジーこどもエコクラブ（東京都品川区）
6. ～えどがわ自遊楽校～みずとみどりの寺子屋（東京都江戸川区）
7. NPO 法人 メダカのがっこう（東京都武蔵野市）
8. 母島自然観察同好会（東京都小笠原村）
9. 野島自然観察探見隊（神奈川県横浜市）
10. 美しき地球号依知南環境守り隊（神奈川県厚木市）
11. Discover Nature（長野県長野市）
12. エコクラブ JNW（岐阜県多治見市）
13. 山崎川グリーンマップ（愛知県名古屋市）
14. こどもエコクラブもちはしジュニア応援隊（愛知県名古屋市）
15. 伯母Q五郎～伯母川研究こどもエコクラブ～（滋賀県栗東市）
16. 大阪府立高津高等学校生物研究部（大阪府大阪市）
17. もっちーず+α（兵庫県明石市）
18. 五條市立大塔中学校（奈良県五條市）
19. にこちゃんず（岡山県赤磐市）
20. さぬきこどもエコクラブ（香川県高松市）
21. 生き物調査隊（福岡県糟屋郡）
22. リルーグリーンクラブ 2（長崎県長崎市）
23. 東植田探検隊（大分県大分市）